



平成26年4月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年9月12日

上場会社名 フリービット株式会社

上場取引所 東

コード番号 3843 URL <http://www.freebit.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石田 宏樹

問合せ先責任者 (役職名) 取締役グループ経営管理本部長 (氏名) 清水 高

TEL 03-5459-0522

四半期報告書提出予定日 平成25年9月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年4月期第1四半期の連結業績(平成25年5月1日～平成25年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年4月期第1四半期	5,252	△0.4	306	100.7	276	144.1	△64	—
25年4月期第1四半期	5,274	5.5	152	4.7	113	△40.5	△33	—

(注) 包括利益 26年4月期第1四半期 △55百万円 (—%) 25年4月期第1四半期 △5百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年4月期第1四半期	△3.30	—
25年4月期第1四半期	△1.70	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年4月期第1四半期	16,925	6,034	33.9
25年4月期	17,869	6,242	33.2

(参考) 自己資本 26年4月期第1四半期 5,739百万円 25年4月期 5,940百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年4月期	—	0.00	—	7.00	7.00
26年4月期	—	—	—	—	—
26年4月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成26年4月期の配当予想については未定です。

3. 平成26年4月期の連結業績予想(平成25年5月1日～平成26年4月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	10,000	△4.1	370	0.4	300	20.8	△130	—	—
通期	20,000	△3.2	1,200	28.2	1,000	108.1	100	—	5.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年4月期1Q	20,414,000 株	25年4月期	20,411,600 株
② 期末自己株式数	26年4月期1Q	868,800 株	25年4月期	868,800 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年4月期1Q	19,543,191 株	25年4月期1Q	19,839,345 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ですが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、デフレ脱却に向けた政府の経済政策や金融政策への期待感から株価上昇や円高是正が進行したことにより、緩やかな景気回復の兆しが見られました。しかしながら、その効果は消費など実体経済の回復にまでには至っておらず、また、新興国などの経済減速懸念等により、グローバル経済は依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループは、当連結会計年度である平成26年4月期を初年度とする中期経営計画「SiLK VISION 2016」において、前中期経営計画「SiLK VISION 2013」にて完備した4つのレイヤー（ブロードバンドインフラ、クラウドコンピューティングインフラ、アドテクノロジーインフラ、次世代インターネット・ユビキタスインフラ）を垂直統合し、一気通貫でサービスを提供するMCI（Multi Layer Component Integration）戦略のもと、将来の成長が予想される3つの領域「モバイル革命」「生活革命」「生産革命」への徹底した顧客志向のサービス投入をテーマとし、以下の平成26年4月期の基本方針に則り取組みを開始いたしました。

<平成26年4月期基本方針>

- ・LTEサービス開始、「freebit MVNO Pack」によるパートナー制度立上げ及び独自マーケティング手法によるBtoC向けモバイル事業の本格立上げ
- ・YouriDCのOEM提供及び回線/クラウド/アプリの統合による競争力のあるコスト構造とサービスによるクラウド事業の成長
- ・株式会社フルスピード（以下、「フルスピード」）と当社技術を融合したDSP/3PASの広告配信サービスの共同展開によるアドテクノロジー領域の成長
- ・M2M/ビッグデータ技術を利用した医療周辺サービスの展開及びServersMan各種ライセンスの積極展開等による新規事業の立上げ
- ・不正再発防止のための取組み等グループ管理機能の強化及び成長事業におけるコスト管理体制の徹底
- ・グループブランド構築、戦略的開発及び構造改革のための戦略的投資の実行

当第1四半期連結累計期間においては、重点事業であるモバイル/クラウドの成長とグループシナジーを活かしたアドテクノロジーサービスの拡大が寄与し、営業利益・経常利益については前年同期比及び第1四半期計画比ともに大幅な増益を達成いたしました。

中でも、前連結会計年度より子会社の株式会社ドリーム・トレイン・インターネット（以下、「DTI」）を中心に、スマートフォン端末を対象とした戦略的モバイル通信サービス「ServersMan SIM 3G 100」の展開を積極的に進めたことにより、ユーザー数が順調に増加し大幅に利益貢献いたしました。また、NTTドコモとのL2接続におけるLTEサービスの本格参入を果たし、回線（3G/LTE/固定網）+クラウド環境（MVNOバックオフィス環境）+ユーザーサポート+ミドルウェア（ServersMan SiLK OS）+端末までをパッケージした「freebit MVNO Pack」を提供開始し、本パッケージの第1弾として、DTIより「ServersMan SIM LTE 100」の提供を開始いたしました。アドテクノロジーインフラにおいては、膨大なコンピューティングパワーとビッグデータ解析技術を活用した広告統合管理システムをフルスピードと共同開発し第1弾をリリースするなど、アドテクノロジー領域の新サービスが軌道に乗り始めたことなどから、売上高及び営業利益ともに増加いたしました。一方、ブロードバンドインフラにおいては、ISP事業者の買収戦略の再開による契約者数が増加したことに加え、契約ISP事業者へのMVNOサービスの拡販を積極的に進めたことにより売上高は増加いたしました。固定網の成長鈍化を想定した基幹網の大規模な再構築（今後3年間で約1,500百万円のコスト削減を見込む）にかかる先行投資費用等が期初計画どおり発生いたしました。また、クラウドコンピューティングインフラにおいては、子会社の株式会社ベッコアメ・インターネット（以下、「ベッコアメ・インターネット」）の不正取引における過年度の会計処理の訂正及び再発防止のための体制変更等に時間を要し、さらに旧経営陣作成の予算を厳密に精査しなおしたこと等から、事業の進捗に遅れと計画差異が生じました。

以上の結果、売上高は5,252,766千円（前年同期比0.4%減）、営業利益は306,870千円（前年同期比100.7%増）、経常利益は276,410千円（前年同期比144.1%増）となりました。なお、平成25年5月に発覚いたしましたベッコアメ・インターネットの不明瞭な取引及び会計処理に関する特別調査委員会の調査結果を踏まえ、フルスピードを連結子会社化いたしました平成23年4月期まで遡る過年度の決算の修正、再発防止策の作成等を行いましたことから、本件の関する一連の作業に掛かる費用が167,751千円発生いたしました結果、64,428千円の四半期純損失（前年同期は33,654千円の四半期純損失）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、「ブロードバンドインフラ」、「クラウドコンピューティングインフラ」、「アドテクノロジーインフラ」、「次世代インターネット・ユビキタスインフラ」、「B2C」の5報告セグメントとし、「SI」につきましては、アプリケーションソフト及びシステムの受託開発事業を縮小したことにより四半期連結財務諸表における重要性がないと判断し「その他」に統合して開示いたします。

① ブロードバンドインフラ

戦略的なISP事業の買収及びMVNOサービス拡販による固定回線依存の体質からの脱却を進めた結果、モバイル通信の契約数は順調に推移いたしました。その結果、売上高は1,894,325千円（前年同期比5.9%増）となりましたが、営業利益については、固定回線の契約数減少及び固定網減少を見越した基幹網の再構築にかかる先行投資費用等が発生したこと等により、セグメント利益は171,774千円（前年同期比20.3%減）となりました。

② クラウドコンピューティングインフラ

売上変動の激しいゲーム業界以外の顧客開拓を図り、昨今のニーズの高まりにより市場拡大が予測されるディジタルカバリ市場への参入に向けたクラウドバックアップサービス等にも注力し開発を進めてまいりました。一方、ベッコアメ・インターネットの不正取引にかかる対応に時間を要し事業進捗に遅れが生じたこと、また、同社が運営するデータセンタの再構築にかかるコスト等が発生した結果、売上高は541,472千円（前年同期比4.2%減）、セグメント損失は55,963千円（前年同期は21,523千円のセグメント利益）となりました。

③ アドテクノロジーインフラ

子会社のフルスピードの構造改革が終了し、利益基調へと進んだことから、アドテクノロジーへの転換を企図した新規サービスの本格的な拡販が始動いたしました。当第1四半期連結累計期間においては、潤沢なネットワーク、コンピューティングリソースにより継続的な差別化が可能と想定される広告主によるリアルタイムの広告入札と配信先選定をテクノロジーで自動化する広告配信システムをフルスピードと共同開発し、第1弾をリリースしたことから、本サービスの取引社数が順調に増加いたしました。

以上の結果、売上高は2,105,449千円（前年同期比7.3%増）、セグメント利益は162,047千円（前年同期比139.3%増）となりました。

④ 次世代インターネット・ユビキタスインフラ

M2M領域においてのコアコンポーネントである「Cloud@SD」の開発を進め、シンプルなソリューションによる顧客提案の拡大を継続しております。当第1四半期連結累計期間においては、家電販売における赤字幅を大幅に縮小し、利益率の高い独自性のあるソリューションへのシフトを推進いたしました。以上の結果、売上高は9,282千円（前年同期比62.7%減）、セグメント損失は39,009千円（前年同期は91,947千円のセグメント損失）となりました。

⑤ B2C

子会社のDTIを中心に、成長著しいモバイル・クラウド領域において戦略的サービスを投入いたしました。中でも、月額490円で最大100Kbpsでの常時接続が可能なエンドユーザー向けの無線通信サービス「ServersMan SIM 3G 100」、当社の特許技術を採用したスマートフォン向けIP電話サービス「ServersMan 050」、当第1四半期連結累計期間内に提供開始したLTE対応の「ServersMan SIM LTE 100」等、MVNOサービスの提供に注力し、モバイルユーザー数の拡大に寄与いたしました。さらに、PCを対象としたモバイルルータの機器販売から、普及が進むスマートフォンを対象としたSIM販売へとモバイル戦略を転換したことにより、売上高は減少したものの、利益については増加いたしました。以上の結果、売上高は1,141,265千円（前年同期比4.4%減）、セグメント利益は246,492千円（前年同期比158.4%増）となりました。

セグメント別売上高及びセグメント損益

(単位：千円)

区分	売上高	セグメント利益 又は損失 (△)
ブロードバンドインフラ	1,894,325	171,774
クラウドコンピューティングインフラ	541,472	△55,963
アドテクノロジーインフラ	2,105,449	162,047
次世代インターネット・ユビキタスインフラ	9,282	△39,009
B2C	1,141,265	246,492
その他	88,316	△17,767
調整額	△527,346	△160,703
合計	5,252,766	306,870

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は16,925,680千円となり、前連結会計年度末と比べて944,138千円減少しました。これは主として、現金及び預金が461,910千円及びのれんが213,041千円減少したことによるものです。

負債は10,891,249千円となり、前連結会計年度末と比べて736,033千円減少しました。これは主として、短期借入金金が300,000千円増加したものの、長期借入金金が437,985千円及び引当金が581,923千円減少したことによるものです。

純資産は、主に配当金の支払い及び四半期純損失により利益剰余金が減少したこと等により、前連結会計年度末と比べて208,105千円減少の6,034,430千円となり、この結果、自己資本比率は33.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

ベッコアメ・インターネットの不正取引に掛かる特別調査委員会の調査費用及び過年度訂正監査費用167,751千円を特別損失として計上したこと及び最近の業績の動向を踏まえ、平成26年4月期第2四半期連結累計期間及び通期連結業績の予想数値を修正いたしました。詳細につきましては、平成25年9月12日公表の「当社連結子会社の不明瞭な取引及び会計処理に関する特別調査委員会調査及び過年度決算訂正費用確定による特別損失計上及び業績予想数値の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,685,302	4,223,392
受取手形及び売掛金	3,159,885	3,103,647
商品及び製品	119,081	106,944
仕掛品	11,063	6,600
原材料及び貯蔵品	6,089	7,476
その他	2,818,390	2,657,298
貸倒引当金	△263,558	△240,148
流動資産合計	10,536,253	9,865,212
固定資産		
有形固定資産	1,577,624	1,667,080
無形固定資産		
のれん	3,670,893	3,457,852
ソフトウェア	298,813	299,722
その他	106,932	116,136
無形固定資産合計	4,076,639	3,873,710
投資その他の資産		
投資有価証券	1,047,064	1,001,938
差入保証金	445,459	441,894
その他	684,815	604,076
貸倒引当金	△498,037	△528,233
投資その他の資産合計	1,679,301	1,519,676
固定資産合計	7,333,565	7,060,467
資産合計	17,869,818	16,925,680
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	80,170	39,902
短期借入金	1,670,000	1,970,000
1年内返済予定の長期借入金	1,819,867	1,832,314
未払金	2,999,618	3,161,063
未払法人税等	156,189	60,502
引当金	227,230	70,548
その他	791,041	921,104
流動負債合計	7,744,118	8,055,434
固定負債		
社債	200,000	150,000
長期借入金	2,530,900	2,092,914
引当金	595,501	13,577
その他	556,762	579,322
固定負債合計	3,883,164	2,835,814
負債合計	11,627,282	10,891,249

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,045,085	3,045,685
資本剰余金	1,673,302	1,673,902
利益剰余金	1,691,518	1,482,438
自己株式	△488,747	△488,747
株主資本合計	5,921,159	5,713,278
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,148	5,122
為替換算調整勘定	13,826	20,700
その他の包括利益累計額合計	18,974	25,822
新株予約権	3,348	3,348
少数株主持分	299,054	291,981
純資産合計	6,242,535	6,034,430
負債純資産合計	17,869,818	16,925,680

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)
売上高	5,274,757	5,252,766
売上原価	3,493,662	3,302,365
売上総利益	1,781,095	1,950,401
販売費及び一般管理費	1,628,202	1,643,531
営業利益	152,892	306,870
営業外収益		
受取利息	3,033	951
受取配当金	251	203
負ののれん償却額	15,329	—
受取保険料	—	5,678
その他	1,928	1,208
営業外収益合計	20,542	8,042
営業外費用		
支払利息	30,241	25,064
持分法による投資損失	20,866	8,703
その他	9,091	4,734
営業外費用合計	60,199	38,502
経常利益	113,235	276,410
特別損失		
減損損失	—	41,458
過年度決算訂正関連費用	—	167,751
その他	9,567	4,845
特別損失合計	9,567	214,055
税金等調整前四半期純利益	103,668	62,354
法人税、住民税及び事業税	100,040	43,368
法人税等調整額	4,245	80,519
法人税等合計	104,286	123,888
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△617	△61,533
少数株主利益	33,036	2,895
四半期純損失(△)	△33,654	△64,428

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年5月1日 至平成24年7月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△617	△61,533
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,110	△44
為替換算調整勘定	—	1,941
持分法適用会社に対する持分相当額	△3,580	3,823
その他の包括利益合計	△4,690	5,720
四半期包括利益	△5,307	△55,812
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△37,811	△59,503
少数株主に係る四半期包括利益	32,503	3,691

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年5月1日至平成24年7月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	アドテクノロジ ーインフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C
売上高					
外部顧客への売上高	1,432,201	526,648	1,944,357	24,389	1,192,753
セグメント間の内部売上高 又は振替高	357,147	38,774	17,882	503	470
計	1,789,348	565,422	1,962,239	24,893	1,193,224
セグメント利益又は損失(△)	215,567	21,523	67,715	△91,947	95,405

(単位:千円)

	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高				
外部顧客への売上高	154,407	5,274,757	—	5,274,757
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,623	428,400	△428,400	—
計	168,030	5,703,158	△428,400	5,274,757
セグメント利益又は損失(△)	△6,057	302,207	△149,314	152,892

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△149,314千円には、のれん償却額△151,391千円、貸倒引当金の組替額1,244千円及びその他の連結調整額831千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成25年5月1日至平成25年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	ブロードバンド インフラ	クラウドコンピ ューティング インフラ	アドテクノロジ ーインフラ	次世代インター ネット・ユビキ タスインフラ	B2C
売上高					
外部顧客への売上高	1,448,473	485,335	2,094,485	9,280	1,140,703
セグメント間の内部売上高 又は振替高	445,851	56,137	10,963	2	562
計	1,894,325	541,472	2,105,449	9,282	1,141,265
セグメント利益又は損失(△)	171,774	△55,963	162,047	△39,009	246,492

(単位:千円)

	その他	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高				
外部顧客への売上高	74,487	5,252,766	—	5,252,766
セグメント間の内部売上高 又は振替高	13,828	527,346	△527,346	—
計	88,316	5,780,112	△527,346	5,252,766
セグメント利益又は損失(△)	△17,767	467,573	△160,703	306,870

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△160,703千円には、のれん償却額△167,513千円、貸倒引当金の組替額5,359千円及びその他の連結調整額1,451千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間から「SI」に関しましては、量的な重要性が減少したため「その他」に含めて記載する方法に変更しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第1四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。